



「ふれあう手と手」

副校長 後藤 茂敦

突然ですが、「情けは人の為ならず」という言葉の意味を知っていますか。

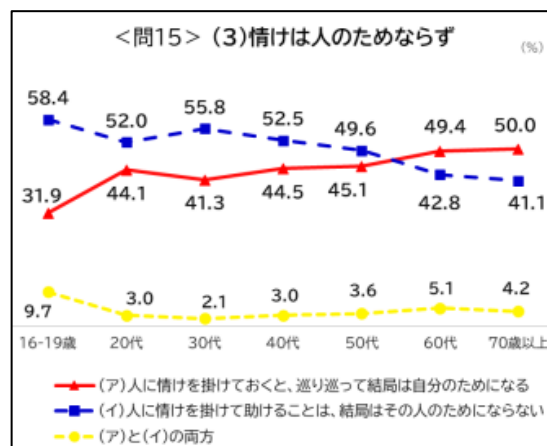
(ア) 人に情けを掛けておくと、巡り巡って結局は自分のためになる。

(イ) 人に情けを掛けて助けてやることは、結局はその人のためにならない。

解答に迷われた方がいるかもしれません。これは、令和4年度に文化庁が実施した「国語に関する世論調査」の設問の一つで、その時の結果は以下のとおりでした（以下、文化庁 HP より引用）。

(ア) 46.2% (イ) 47.7%

本来の意味である（ア）を選択した人の割合と、本来の意味ではない（イ）を選択した人の割合が拮抗しています。しかし、年代別のグラフを見ると、60歳以上を除く全ての年代で、本来の意味ではない（イ）を選んだ人の割合が多いことがわかります。特に16～19歳の若い世代では、6割近くの人が意味を取り違えています。ちなみに国語辞典での本来の意味は、「情を人にかけておけば、巡り巡って自分により報いが来るとのこと（大辞林 第3版）」となっています。



6月は、いじめ防止・健全育成のための「ふれあい月間」です。子どもたちの健全育成を目指し、いじめの早期発見・早期対応、未然防止につながる具体的な取り組みを行っています。二小では、教育目標の一つに「あたたかく」を掲げ、今年度の重点目標になっています。昨年度の6年生は、「一人一人を大切にし、認め合おう」というメッセージを残しています。その具体的な取組として「ふわふわ言葉」があります。「ありがとう」「大丈夫？」という優しい言葉掛けだけでなく、「一緒に遊ぼう」「今日は楽しかったね」など、何気ない言葉の中にも、心がふわふわと温くなるものが含まれています。先日、校庭の様子を見ていたとき、転んで泣いていた1年生の手をつないで保健室に向かう高学年の姿がありました。ふれあった手を通して、きっと1年生にもその優しさが伝わっていたと思います。「ありがとう」と私が声を掛けると、保健室まで連れて来てくれた子の表情はとても満足そうで、その笑顔に私の心も温くなりました。

優しい言葉や態度は、相手の心をふわふわと気持ちのよいものにします。さらに、言葉を掛けたその人の心も豊かにし、巡り巡ってその人が困ったときには同じ優しい誰かが手を差し伸べてくれると信じています。「情けは人の為ならず」の本来の意味のように、優しい言葉がこだまのように自分に返ってくる、そんな「ふわふわ言葉」が響く学校づくりに今後も取り組んでいきます。